

第1回：オリエンテーション

日 時：5月21日（日） 13：30～16：30

会 場：江東区役所 7F会議室

内 容：オリエンテーション

- ・今年度の主旨と取り組みを説明しました。
- ・UD理解のため、講師をお招きしてお話をうかがいました。
- ・その後、グループに分かれて、「ボランティアってなんだろう？」について話し合いました。

プログラム：

13：30 【開会】 あいさつ

13：35 ①【今年度の進め方】趣旨と取り組みの内容

14：00 ②【講座】日本とアメリカで盲導犬を利用して感じたこと
(60分) 講師 土井 健太郎さん

15：00 ～休 憩 (10分) ～

15：10 ③【グループワーク】

(50分)

・グループ内で自己紹介

・ボランティアってなんだろう？

※ボランティアと言っても、そのイメージは多様です。

このワークショップとして求めるボランティア像を話し合います。

1) ボランティアの人物像

※具体的に、どんな人が増えると良いのか

2) ボランティアに必要なスキル（能力）

※その人はどんなスキルを持っていると良いのか

16：00 【発表と意見交換】

(25分)

16：25 事務連絡、アンケート記入

16：30 終了



①【今年度の進め方】

取り組みの趣旨を説明しました。

●ワークショップの目的

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは多くの人から国内外から江東区を訪れます。これを契機としてユニバーサルデザインまちづくりの視点から来訪者を迎え入れるとともに、そのレガシー（遺産）として住みよいまちづくりにつながるような「ボランティア意識の向上」を目指します。

《テーマ1》

：「ボランティア」って何をするの？どんなことが必要なの？今年度の成果物（ボランティアマニュアルなど）と併せて考えます。

《テーマ2》

：江東区のまち歩きを行い、ボランティアとして、どんな視点で来訪者の支援や魅力を伝えたら良いか考えます。

《テーマ3》

：「ボランティア」に求められるコミュニケーションのあり方、心構えなどを実際の現場に出て考えます。

②【講座】日本とアメリカで

盲導犬を利用して感じたこと

東京都網膜色素変性症協会 会長

土井 健太郎さん



日本とアメリカの2つの国で盲導犬を利用している体験を通して、多様な人への対応を考えるヒントとなるお話をいただきました。

～自己紹介～

私は3歳で網膜色素変性症（RP）と診断され、弱視ではあったものの通常の小中学校に通いました。受験を経て、高校1年生の時に視覚障害による身体障害者と認定されました。

その後、一浪しながらも、がんの研究をしたいとの気持ちから、大学の生物学科に入学しました。大学卒業後も研究を続けたかったため、別の大学院へ進み、博士号を取得しましたが、更に研究を続けるにあたり、いまだに治療法が見つかっていない自分の病気を新たな研究テーマにすることとしました。

ニューヨークの大学で研究する機会を頂けたことから、10年間渡米することになりました。その間に、9/11のテロを間近で経験し、盲導犬との出会いもありました。

研究に一区切りつけられたところで帰国を決め、医療機器メーカーに就職することとなりました。新しい治療を患者様に提供すべく、臨床開発部で業務にあたり、現在に至ります。

③【グループワーク】

■ボランティア像を考えるヒント

(1) ボランティアの人物像

- ▶「ボランティア」というと、社会活動などに無償で参加する人といった固定的なイメージがあるかもしれません。ボランティアとはどういう人で、どんな行動をとることが求められているのでしょうか。
- ▶ここでは、自らの意思で社会活動等は無償を原則として参加することをボランティアの基本とし、江東区の魅力のひとつ「人情」と相通ずる概念としてとらえます。「人情」とは、来訪者や他者をつなぎ、働きかけようとする心持ちであり、その背景には、ユニバーサルデザインにつながる「他者への理解」があると考えます。

え

い

- ▶東京 2020 オリンピック・パラリンピックを契機として、江東区への来訪者にウエルカムの気持ちを伝えること、東京 2020 大会のレガシーとして、その人材が UD まちづくりの核になっていくことを目指します。
- ▶UD の基本である多様な人や文化に対する理解、共感、継続した実践（スパイラルアップ）を基本とします（英語ができる、できないということにこだわらない）。
- ▶思いは相手に伝わるのが大切です。「意識」を「行動」に結びつけることを目指します。

- | ●●●

- ▶来訪者にウエルカムの気持ちが伝えられるオープンな気持ちを持っている人。
- ▶自分の住まいや職場周辺の魅力スポット等、得意とする地域を持っていて、江東区に不慣れな人に、江東区の魅力や情報を伝えられる人。
- ▶人と人の交流のきっかけをつくるコミュニケーションがとれる人、言葉が通じない人とのコミュニケーションの手段を知っている人。
- ▶UD の理解があり、困っている人を支援する基本的な知識と技術がある人。


(2) ボランティアの活動イメージ（ボランティアの概念を広げて考えよう）

ボランティアとは、できることをできる範囲ですることが基本です。ボランティアの概念を広げるために、それにかかる時間によってどんなことができるか考えてみましょう。以下に考えられる行動を例示します。

▶街中でのお互いのコミュニケーションのマナーもここでは広義のボランティアととらえます。

【活動例】

- ・エレベーター等ですれ違った時に会釈する
- ・ドアを開けて入る時に後ろの人を気にする
- ・外国人、子ども、子ども連れの人、障害者に声かけする
- ・高齢者に声かけする、席をゆずる
- ・災害等の緊急時に江東区に不慣れな人を誘導する
- ・マナー違反の人やお店に上手に伝える（※はみ出し商品や誘導ブロック上の荷物、自転車等）

▶少しだけ自分の時間を使って、来訪者や周囲の人への配慮や対応をします。

【活動例】

- ・道、地域の情報（土産、おいしい店等）、キップの買い方を教える
- ・障害者や高齢者に短い距離を誘導する、横断歩道を渡る介助をする、ホームから電車のドアまで介助する
- ・視覚障害者の買い物の支援
- ・短いルートの介助

▶もう少し長い時間、来訪者や支援が必要な人に応対できるようにします。

【活動例】

- ・観光コースの案内
- ・買い物の支援
- ・高齢者のちょっとした生活の手助け（電球替え、重い荷物を運ぶ）
- ・話相手になる

瞬間ボランティア

【駅や乗り物での手伝い】

【ベビーカーを使っている人への手伝い】

【車いすの通行を円滑に】

【エレベーターでゆずりあい】

【電車などで席をゆずる】

【トラブル時に声かけをする】

【危険の回避】

【日常的な声かけ、手伝い】

【外国人とのコミュニケーション】

【わからないことをちょっと教えあう】

【街を使うルールやマナーを守る】

15分ボランティア

【その人に応じた手伝い】

ち さ ち さ
え さ ち
ち さ

【困り事やトラブル対応】

ち さ
ち さ

【ちょっとした配慮】

ち さ
え さ
ち さ

【道案内】

ち さ
ち さ
へち さ
へち さ
へち さ

2時間ボランティア

【会話を楽しむ】

ち さ
ち さ
ち さ

【その人に応じた手伝い、困り事解決】

ち さ
ち さ
ち さ
ち さ

【道案内】

ち さ
ち さ
ち さ
ち さ
へち さ

【日頃の活動】

ち さ
ち さ
ち さ
ち さ

【高齢者施設での支援】

ち さ
ち さ
ち さ

【イベント参加】

ち さ
ち さ
ち さ

【災害時】

ち さ
ち さ
ち さ

○数字は意見が出たグループ番号

【江東区らしさを出せる人】

- ・人：下町の人情気のある人。④
- ・ア：下町の人情の良さをもっと素直に表したらどうか。←植木をいただいたことがある。①
- ・ア：江東区には「おせっかい」がまだまだある。それをもっと広げていきたい。③

- ・人：視覚障害のニーズを知っている人。／EVの「こちらがあきます」は目の不自由な人にはわからない⑥／交差点に「盲人用押しボタン」とあったが、利用する人は見えるのか？④ 等
- ・人：自分が速く歩けない経験があるので、同じような人に声かけできる。⑥
- ・人：相手が何に困っているか、サポートしてほしいかが一目でわかるような人。①
- ・人：思いやりのある人。④
- ・人：相手の状況、気持ちを把握する、思いやる力が必要。②
- ・人：和を大切にす。③
- ・ア：まちで必要なことを調査するときには、そのデータ分析の仕方が大切だ。当事者の意見を大切にしてほしい。③
- ・ア：何ができないのか、できないことを言ってくれた方がよい。⑥
- ・ア：自分から要望することも必要。②
- ・阻：その人が何に困っているか考えてみること（知識が少ない）。①
- ・阻：聞こえない人は普通の人と同じに見えるので（知識がないと）わからない。④
- ・阻：障害のことを知らないと何を助けてあげたらいいのかわからない。②
- ・他：（エスカレーターを急いで歩きたい人に対して）杖を持つことで歩いて上れないことを周囲に理解してもらえらという面もある。⑥
- ・他：筋力を落とさないようになるべく出かける。⑥

人：人物像 ○数字は意見が出た
 ア：取り組みアイデア グループ番号
 阻：阻害する要因
 他：その他

- ・人：人種の区別なく声掛けしましょう！④
- ・人：不自由な人と思わず、個性と思う。④
- ・ア：オリンピックとパラリンピックを分けずに同時にやる。②
- ・阻：これまで障害者と健常者を分けてきたのでその意識がじゃまをしているのではないか。②
- ・阻：「障害者のAさん」といわれてしまうことが多い。「Aさんと会ったらその人がたまたま障害者だった」となってほしい。（その2つの意識には差がある）②
- ・阻：子どものころからの意識。②
- ・阻：障害者だからという意識。④

- ・ア：外国人がいることを想定したしくみづくり。⑤
- ・ア：多文化コミュニケーションのボランティアがあるとよい（障害者もできる）。③

- ・人：ボランティアのポイントは「楽しんでいるかどうか」だと思う。また逆に、楽しませることができかどうかも大切。土井先生のおっしゃっていたwin winの関係になることができるとよい。③
- ・人：「ボランティア」の意識より一緒に楽しんで一緒に行動。⑥

- ・人：何でも自分から進んで行く人。③
- ・人：瞬間的な勇気があればよいと思う。④
- ・人：声をかけるのは勇気がいるがしなければ…。⑥
- ・人：ためらわずに、良いことはする！③
- ・人：自分の意見を「臆せず」伝えること。③
- ・人：コミュニケーション能力の向上が必要（英語とかではなくて）「勇気」を持つ。②

- ・人：意識を外に向ける。⑥
- ・人：周囲に十分な注意を向ける。⑥

- ・人：まずは声をかける。伝えようとする気持ちが必要。
②
- ・人：人と人をつなげる。③
- ・人：「ありがとう」をきちんと言えること（「すみません」ではなく）。②
- ・人：笑顔一つで違う！実感。⑥
- ・ア：東西線のすごい混雑の中、すばらしい（ほめる）。
⑥

- ・人：楽に伝える気持ちを持つこと。①
- ・人：失敗をおそれず気楽に接すること。①
- ・人：困っている人がいたら、気楽に声掛けすること。
①
- ・人：深く考えずに、まずは声をかけてみる。①

- ・人：空気を読まない、ずうずうしくなる。②
- ・人：周りの目より自分の行動を信じる。⑤
- ・阻：あうんの呼吸はいらないのではないか。②
- ・阻：周りの目を意識してしまうこと。①
- ・阻：日本人は良いことをするのに照れがある（モンゴルではそういうことは全くない）。何かしたときに「ありがとう」ではなく「すみません」と言われる。②

- ・人：英語にこだわらないコミュニケーション。⑤
- ・人：完璧を求めない、ほどほどで。⑤

- ・人：断られたら恥ずかしい（と思わないようにする）。
①
- ・人：一回声をかけて断られると、多くの障害者が断られると思われるかもしれないが、たまたまそういうことだったと思う。④
- ・ア：声かけを断られてもよいという環境を！⑥
- ・阻：親切を断られたことがあるのでためらう（声をかけにくい）。①

- ・ア：IT技術を活用して、外国観光客への多言語対応道案内をしたらよいと思う。③
- ・ア：QRコードを使って、近くの公共施設の車いすやAEDの情報を簡単に見つけられるようにしたらよい。
③

- ・ア：ITが使える若者は、苦手な高齢者の役に立てる。異世代が協力するとよい。③
- ・ア：女性をリーダーに！③

- ・ア：何に困っているかをざっくばらんに話を聞く機会。
⑤
- ・ア：外国の方や障害のある方と慣れる場を作る。⑤
- ・ア：気軽に英語を話せるお茶会飲み会。⑤
- ・ア：知り合うことが大切。チャンスがない。③
- ・ア：当事者が語らう機会が必要だと思う。③
- ・ア：ふれ合う機会をたくさんつくる。②
- ・ア：学習することが大切。④
- ・ア：車いすに乗ってみる。②
- ・阻：理解する機会が少なかったことに原因があるのでは？②
- ・阻：このようなワークショップに出てくる人が街にいない。③

- ・人：もっと具体的な表現を意識する。⑥
- ・ア：一声運動の推進をする。④
- ・ア：「どうしました？」「お手伝いすることはありますか？」の声かけの啓発。⑥
- ・ア：思いやりの気持ちをうまく伝えられない、「どうしました」「大丈夫ですか」の一言でいい。⑥
- ・ア：具体的に指し示すとよいのでは（代名詞でなく）。
⑥
- ・ア：声をかける練習、コンテストをやろう。②
- ・ア：指しでのHELPで最後まで面倒（?）。⑤